

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

2021年 6月 30日

①事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション				
②測定ツール名	進路マップ 基礎力診断テスト				
③主な対象者	就職から専門学校を含む各種の学校・短期大学・四年制大学への進学まで幅広い進路をめざす高校1年生～高校3年生				
④対象教科	国語 ○	数学 ○	英語 ○	⑤測定内容の区分	基本タイプ ○
⑥申請する測定ツールの目的・概要	<p>【目的】 義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度・学習習慣の状況を定期的に測定することで、学校としての指導改善、生徒の学習改善・学習意欲向上・基礎学力向上に役立ててもらうことを目的とする。</p> <p>【概要】 ・「マーク式」（選択肢）問題と「記述式」問題から構成され、「マーク式」問題では主に基礎学力の「知識・技能」を、「記述式」問題では主に「思考力・判断力・表現力」を測定します。 ・義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度をそれぞれの学校の進度にあわせて（回ごとの進度対応）測定することができます。回ごとに事前学習教材の内容とテスト問題の内容が連携しています。 ・生徒向けに、基礎学力の到達状況とその状況に基づいた個別の学習課題を結果として提供するとともに、学習アドバイスを提供することで、受検結果を次の学習改善につなげます。 ・学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用いただけます。 ・1年生から3年生まで全9回構成となっており、選択問題も含まれますので学校の進度により合った実施・測定が可能です。国語・数学・英語についての「マーク式」問題50分間×3教科+「記述式」問題15分間×3教科に加えて、学校採点の英語スピーキング問題5分間、アンケート30分間の構成です。 ・タイプは2種類あり、Cタイプは「教科診断+アンケート」、AタイプはCタイプに「進路適性検査」が加わったものです。</p>				
⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	<p>【特長】 ・事前学習教材と教科テストの内容は6割～7割準拠しています。診断結果は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」別の観点、「義務教育範囲」「高校範囲」別の観点等で集計し測定しています。 ・教科テストとあわせて学習力（教科学習面・生活面・進路面）に関するアンケートがあり、学習習慣作りを含めた生徒向けアドバイスを提供します。 ・事後学習用に、結果に応じた個別問題（生徒用個人帳票に掲載）と動画が提供されます。一人ひとりのつまずきにあわせた学習の仕組みを提供することで学習改善につなげます。 ・学力については、学力測定指標「学習到達ゾーン(GTZ)」により進路可能性と関係づけることで学力結果を生徒の進路選択につなげています。</p> <p>【活用例】 1年生4月入学直後に実施し、入学段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映します。また、個人結果をもとにしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができます。1年生9月に2回めを受けることで、4月からの学力の推移と学習力の変容を把握し、4月からの指導成果を検証することで、学年後半の指導改善につなげます。 ・問題は全回各教科とも前年度と同一問題です。</p>				
⑧実施期間、年間実施回数	<p>【実施期間】原則、実施時期×学年回の選択は、学校による自由設定 問題としては、1年生4回、2年生3回、3年生2回、計9回 【お申込み時期】実施日の15日前を締切とする</p>				
⑨実施方式 (CBT/PBT)	PBTのみ				
⑩試験時間(分)	国語 各学年回 「マーク式」問題：50分 「記述式」問題：15分	数学 各学年回 「マーク式」問題：50分 「記述式」問題：15分	英語 各学年回 「マーク式」問題：50分（リーディング・リスニング） 「記述式」問題：15分（ライティング） 学校採点のスピーキング問題：5分		
⑪受検料	Cタイプ：学校採点の英語スピーキング問題の場合：2,310円 Aタイプ：学校採点の英語スピーキング問題の場合：3,040円 ※すべて消費税等込み				
⑫標準返却期間	1回め：「マーク式」結果＝答案到着後約1～2週間で返却（紙） 2回め：「記述式」＝答案到着後約3～4週間で返却（データ）				
⑬URL(事業者のHP における測定ツール 紹介)	http://www.bhso.ne.jp/				